

# Clinical and laboratory features of anticentromere antibody positive primary Sjogren's syndrome

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Katano, Kenichi メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/15693">http://hdl.handle.net/2297/15693</a>

学位授与番号	医博甲第1509号		
学位授与年月日	平成14年3月22日		
氏名	片野健一		
学位論文題目	Clinical and Laboratory Features of Anticentromere Antibody Positive Primary Sjogren's Syndrome (抗セントロメア抗体陽性原発性シェーグレン症候群における臨床的および検査成績の特徴について)		
論文審査委員	主査	教授	馬 淵 宏
	副査	教授	小 林 健 一
		教授	中 尾 眞 二

### 内容の要旨及び審査の結果の要旨

抗セントロメア抗体（以下ACA）は、CREST症候群の診断マーカーとして広く受け入れられている。しかし、レイノー病や、原発性シェーグレン症候群（以下pSjS）の一部でも陽性になることが知られている。過去のACA陽性かつ抗SSA抗体（以下SSA）陰性のpSjS（以下ACApSjS）に関する限られた報告では、SSA陽性のpSjSに比し、レイノー症状の発症頻度や高 $\gamma$ グロブリン血症の合併頻度に差があることが指摘されている。しかしながら、ACApSjSがpSjSの中で、臨床的に独立した一群であるかどうかは明らかでない。これを明らかにするため、本研究では、ACApSjS群12例と、一般的なSSA陽性かつACA陰性のpSjS（以下SSApSjS）群19例を比較検討し、下記の結果を得た。

- 1) 血清IgG値はACApSjS群で有意に低く、SSApSjSでは高値例が多いのに比し、正常範囲にとどまる傾向が見られた。血清IgA、IgM値は両群で有意差はなかった。
- 2) 白血球減少の頻度については、ACApSjS群で有意に低く白血球数は正常範囲の症例が多かった。
- 3) Natural killer（以下NK）活性は、ACApSjS群で有意に高く、SSApSjSで低値傾向をとるのに比し、正常範囲にとどまる傾向が見られた。
- 4) レイノー症状の頻度は、ACApSjS群で有意に高かった。
- 5) Epstein-Barrウイルス（以下EBV）関連抗体については、EBV慢性活動性感染で見出されることのあるViral capsid antigen（以下VCA）-IgA抗体価がACApSjS群で有意に低かった。
- 6) ACA陽性血清から検出される抗chromo抗体（以下AChAb）の検討では、ACApSjS群12例中11例という高頻度で陽性を示した。
- 7) 小唾液腺生検の組織所見では、両群に明らかな差は認められなかった。

本研究はACApSjSの特徴に関する従来の報告内容に加え、新たにNK活性の保持・VCA-IgA抗体価の低値・AChAbの高い頻度での検出などを明らかにした意義深い研究である。臨床症状・検査成績のいくつかの点で、ACApSjSはSSApSjSとは異なる特徴を有することが明らかとなった。本研究は、ACApSjSの病因・病態解明に重要な手がかりを与えるのみならず、臨床免疫学の発展に貢献する研究と評価された。